

認をする予定であったが、台風10号の接近に伴い延期となった。確定版については、残念ながら本原稿の締め切りのタイミングと合わず、別の機会にご紹介したい。

●福岡市初！新型コロナウイルス感染症対応避難所開設訓練

タイムライン修正版づくりと並行して検討していたのが、新型コロナウイルス感染症対応の避難所開設訓練である。これは、災害時に「一時避難所」となる公民館において、どのような対応ができるのかを考えておく必要があるということで、公民館主催で自治協議会と防災委員会が一緒になって取り組まれた。

当初は、まったく別の事業を予定していたそうだが、このコロナ禍のために、公民館が実質的に利用できない状況となり中止となった。そのような中、熊本県益城町で「新型コロナウイルス感染症対策対応避難所運営訓練」が実施されたとの情報を入手、また、福岡市内においても5月の新聞報道で「第一薬科大学」が新型コロナウイルス感染症対応の避難訓練を独自に実施したことを覚えていたことから、今回の訓練の企画につながったそうである。

講師については、第一薬科大学に直接メッセージを送ったところ、すぐに「担当者から連絡します」との返事をいただくことができ、今回の講師である大渡勝史さん（第一薬科大学避難所運営総務班・生薬学分野助手、以下、大渡先生）にその日のうちにお話しできたとのこと。こうして、福岡市初となる新型コロナウイルス感染症対応避難所開設訓練につながっていった。



講演の様子（防護服、手袋の実演）

以下、公民館の緒方主事から伺った内容や、訓練当日は私も現場にいたことから、その時に聞きした内容を紹介する。

●収容人数は想定半分程度に

緒方主事によると、訓練全体の流れを作るにあたっては、第一薬科大学からは大渡先生と、小松生明さん（薬学部長・教授・農学博士・薬剤師）の両名からアドバイスをいただき、その後、配布資料作成や当日の流れなどのやり取りをしながら、前日の会場設営にもご協力をいただいたとのこと。その中で公民館の収容人数を大幅に見直したそうである。

私は、これは大きなポイントだと考える。なぜなら、今までの避難誘導のあり方や避難者の受け入れ対応、受入後の部屋の使い方を大きく見直さなければならないからだ。

美野島公民館の想定収容人数は、コロナ前であれば80人程度であった。公民館の1階には、スクール形式で20人程度が入れる部屋と、10人程度が入れる部屋が1つずつある。2階には講堂があり、そこには60人程度が入れる。その他、和室などもあるので、それ位の収容が可能とのことであった。しかし、新型コロナウイルス感染症対策という観点からは、1階の2部屋は、濃厚接触者や症状のある人の部屋として、最大でも症状のある人が3人と、その家族（3家族）、2階の講堂は、避難者同士の適切な距離（2m×2m）を保ちながら、通路を確保（1m～1.5m）すると最大9家族が最大収容人数となる。つまり、1家族4人計算とすると50人程度が限度となる。最も、濃厚接触者や感染のある人の部屋も、飛沫防止のパー



受付の様子